
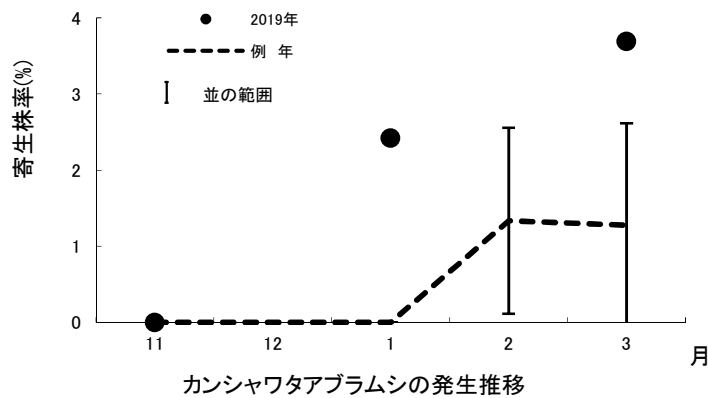


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① カンシャワタアブラムシ		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 宮城島の一部ほ場で多発生。
- ・ 宮城島及び南部地域では、分散能力の高い有翅虫も発生していた。
- ・ 天敵のマエウスジロマダラメイガは未確認。




有翅虫と幼虫→



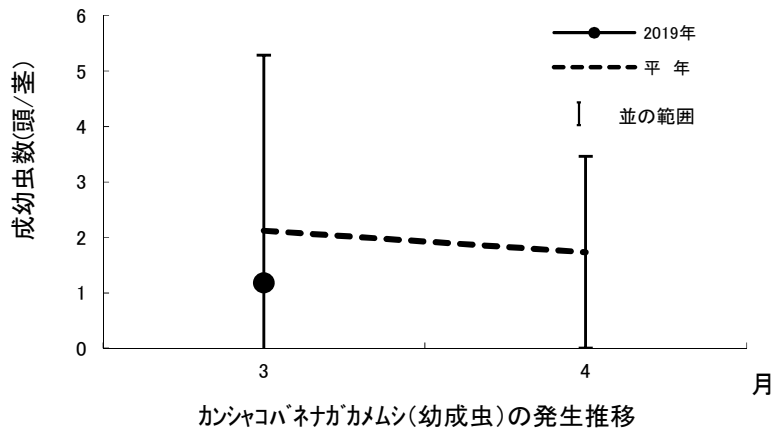
←マエウスジロマダラメイガの幼虫

防除のポイント

- ・ 大発生すると吸汁害及びすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である。
- ・ 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・ 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意する。
- ・ 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- ・ 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



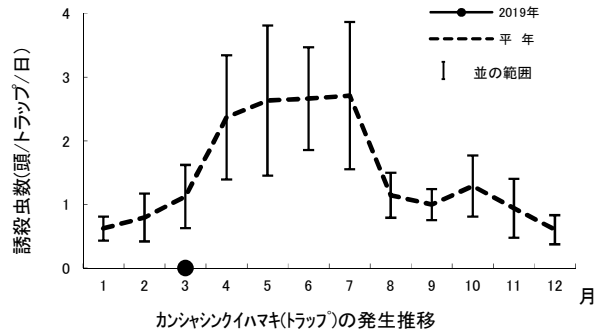
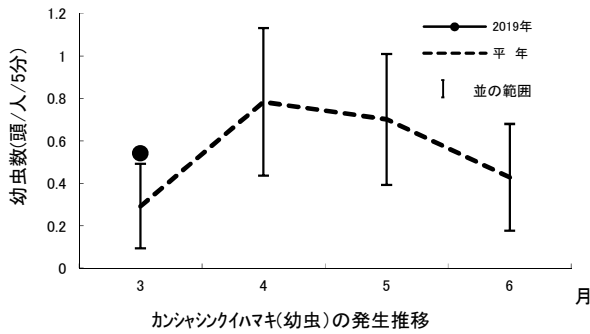
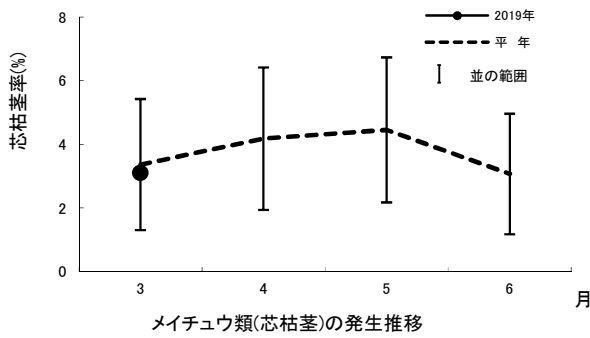
- ・ 2019年の本島の防除適期は4月1日～16日(病害虫発生予察技術情報第3号参照)。

防除のポイント

- ・ 薬剤による防除は、防除適期に茎当たり虫数が20頭を超えている場合は直ちに行く。
- ・ 1回目の株出、及び前年夏植で被害を受けやすいため、特に注意する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕耘をし適切なほ場管理をする。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



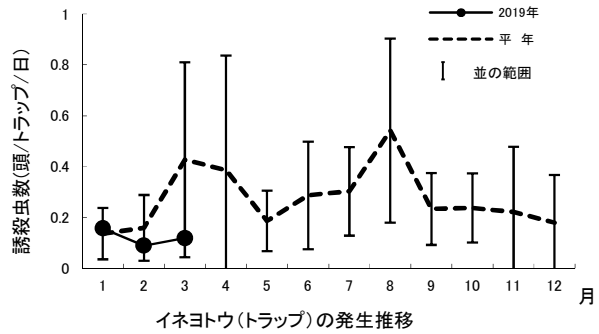
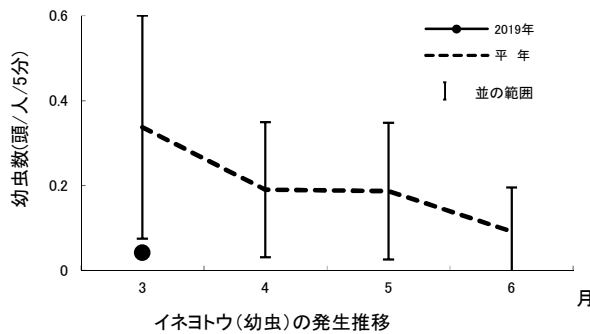
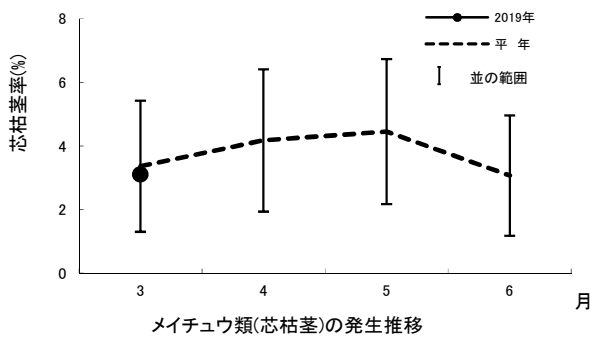
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の93%がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 防除員の報告によると、南大東島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	④ メイチュウ類(イネヨトウ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



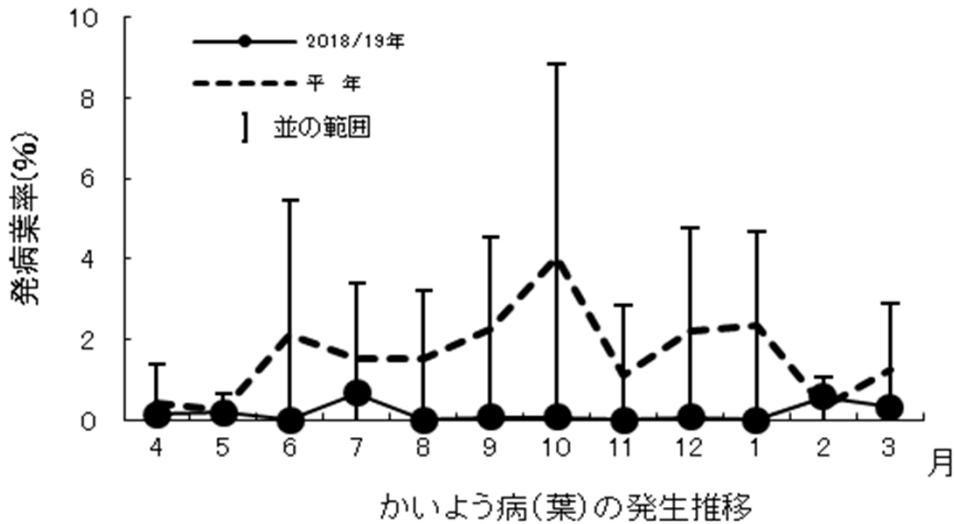
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の7%がイネヨトウであった。
- ・ 防除員の報告によると、南大東島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

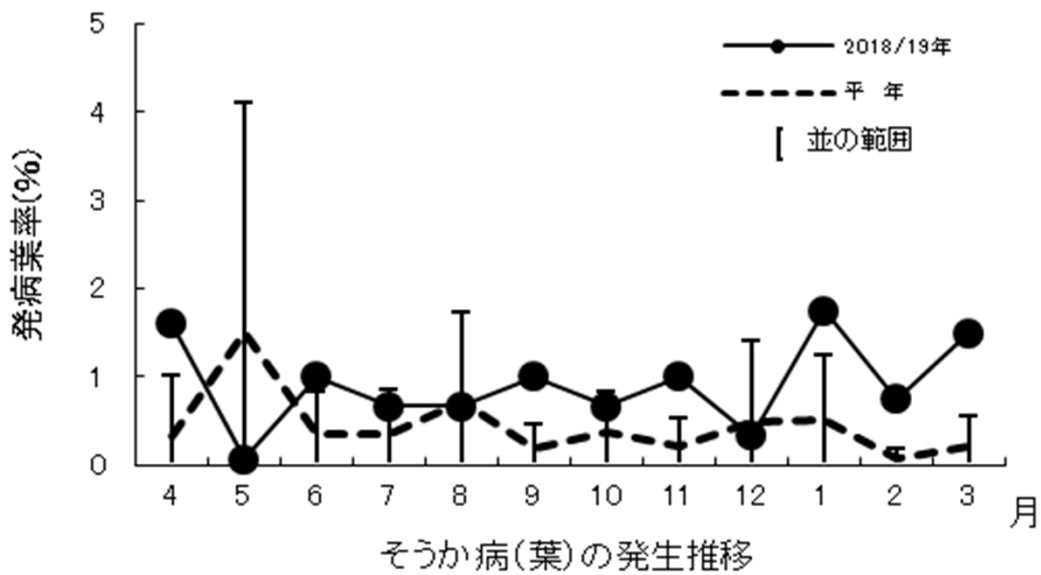


防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は翌年の伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



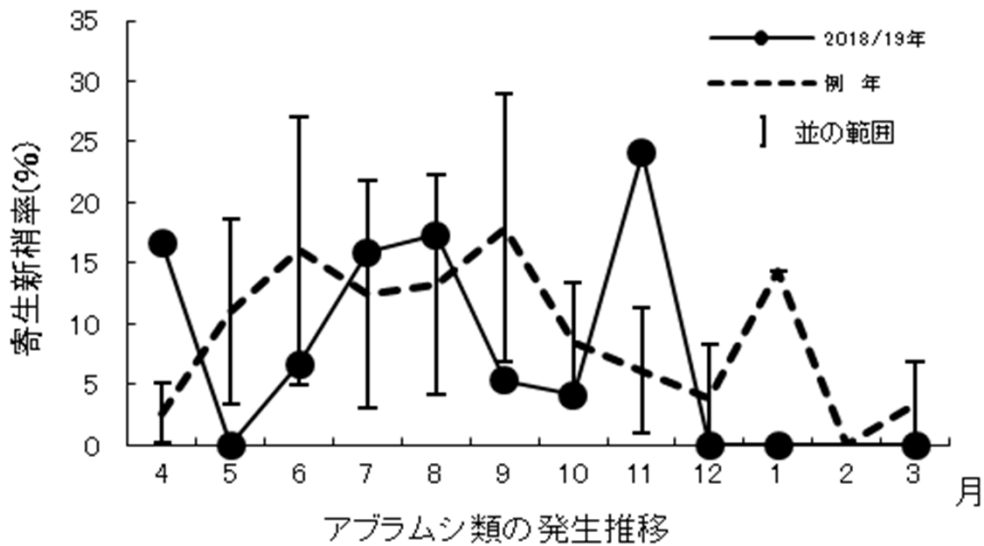
- ・ 一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



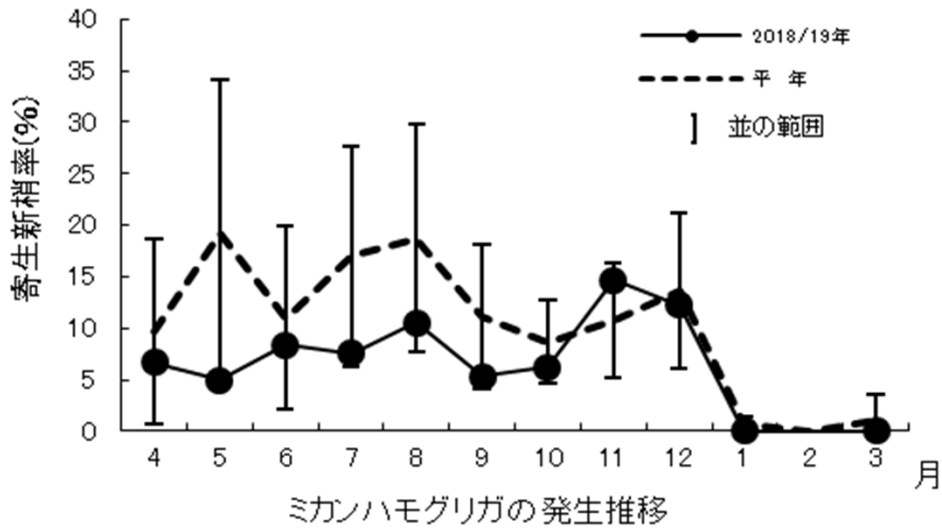
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

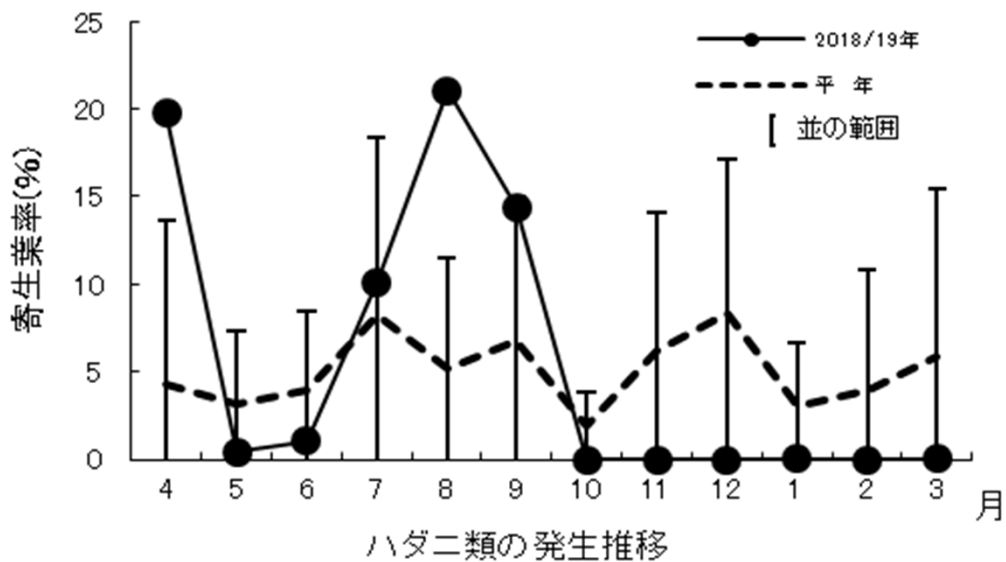


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）




- ・ 防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

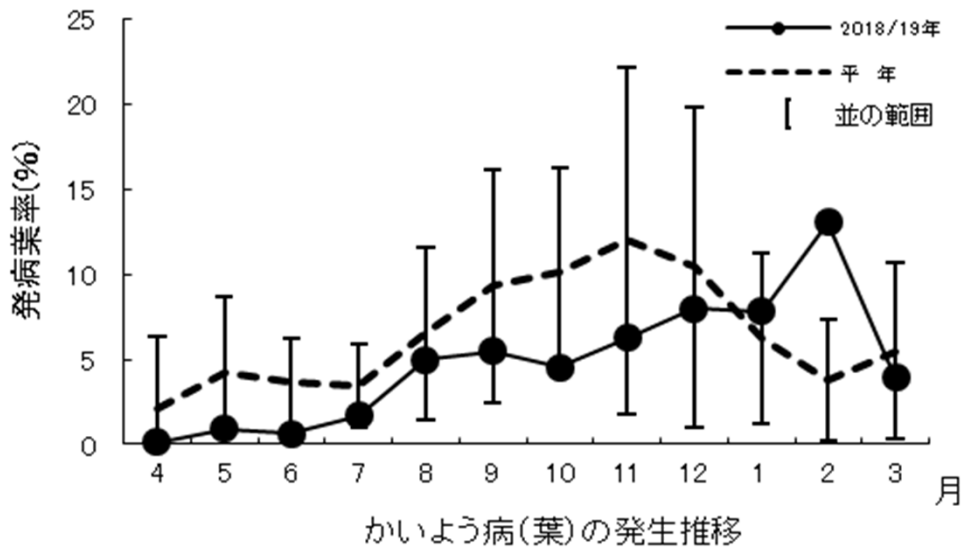
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
3月の発生量 (現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

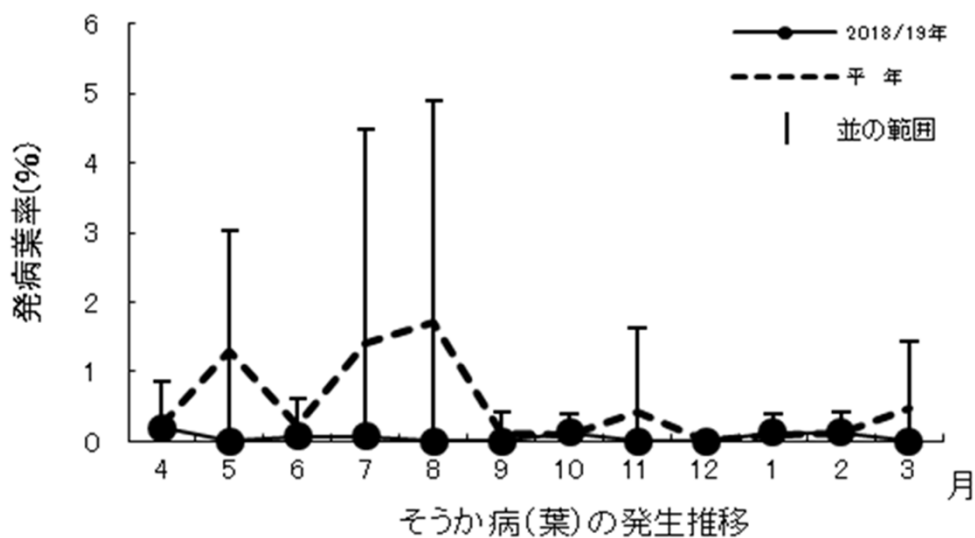


防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
3月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

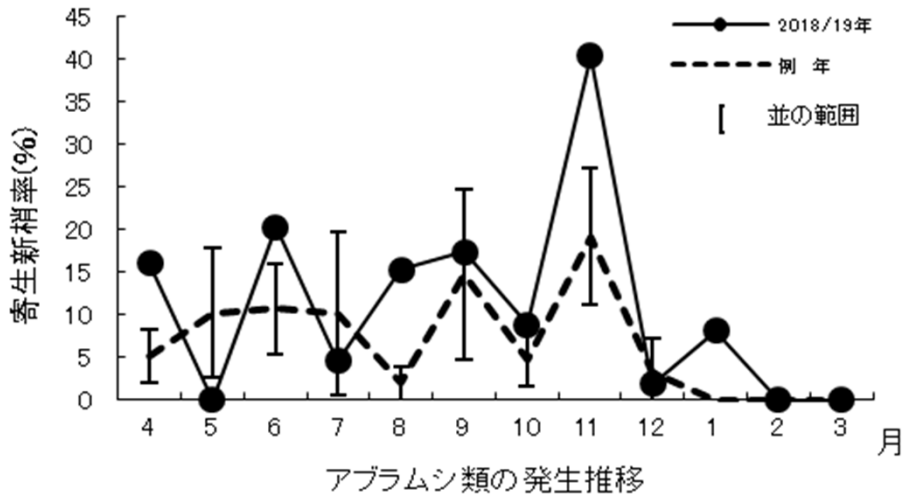


防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
3月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠 (調査結果)



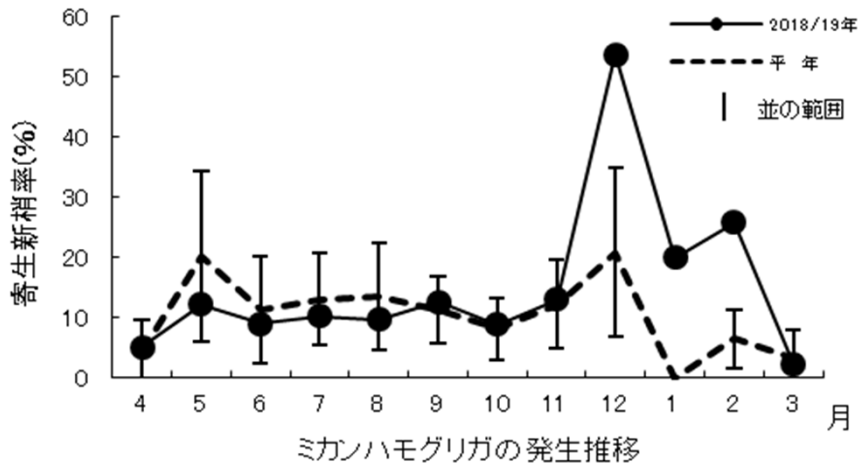
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
3月の発生量 (現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

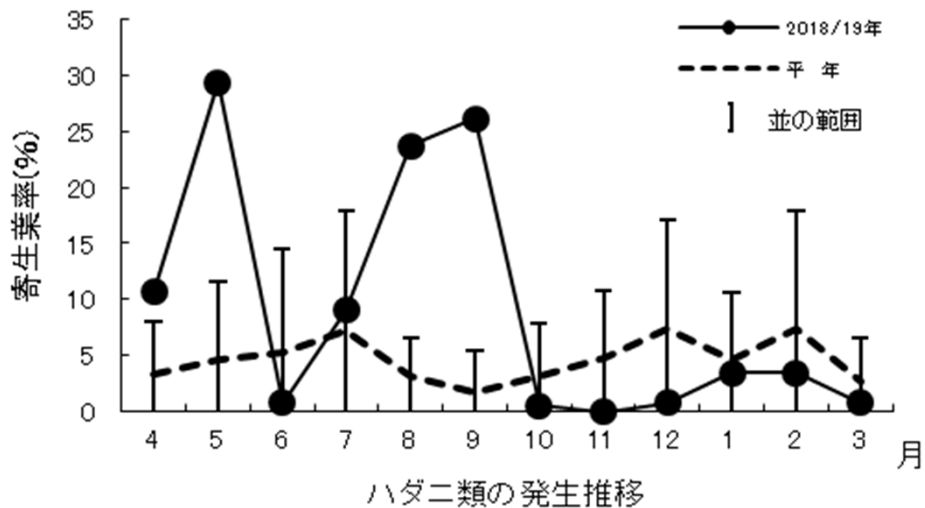


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）




- ・ 防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

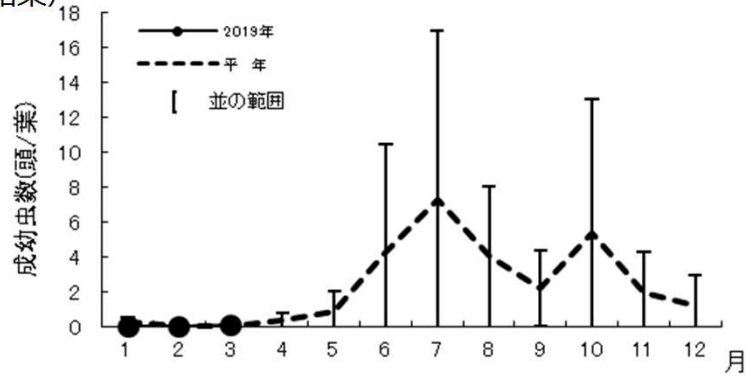


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

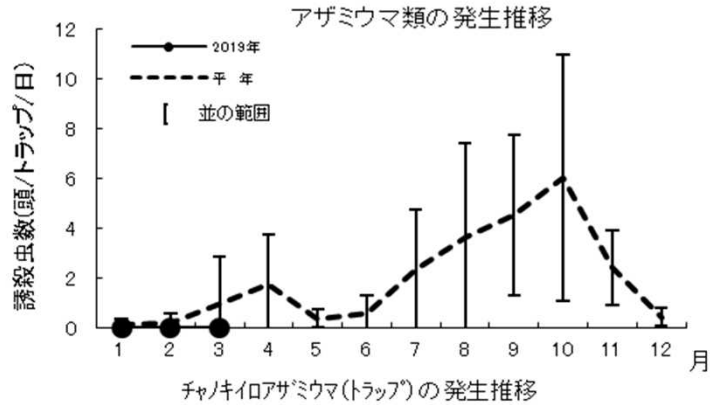
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

(見取り調査)



(トラップ調査)




- ・ 一部施設で多発した。
- ・ 防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

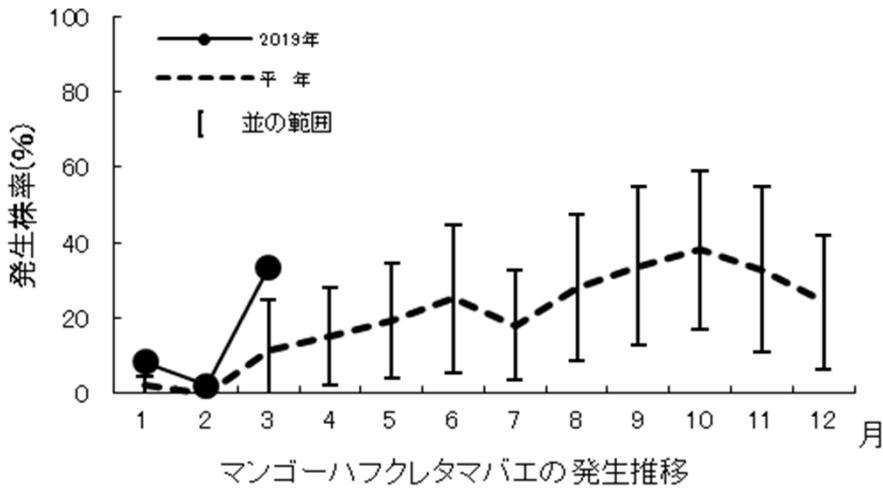
- ・ 開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・ 開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



- ・ 発生施設率：62.5%（5 / 8）
- ・ 防除員報告：中発生（本島北部）

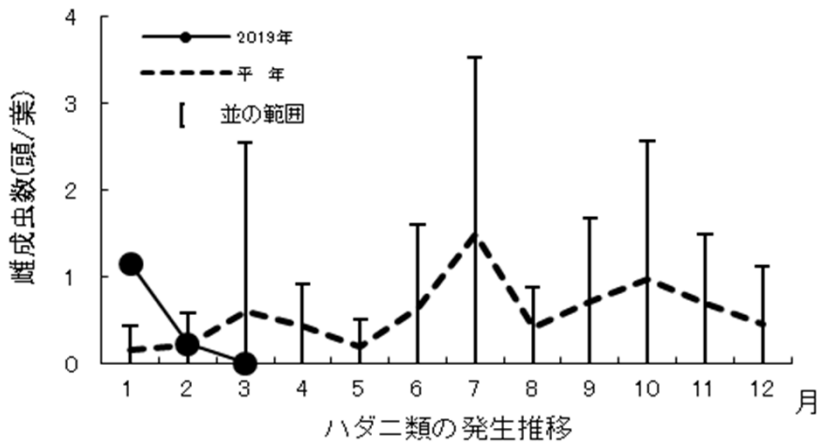
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

（成葉における調査結果）




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 新梢ではハダニの寄生は確認できなかった。

防除のポイント

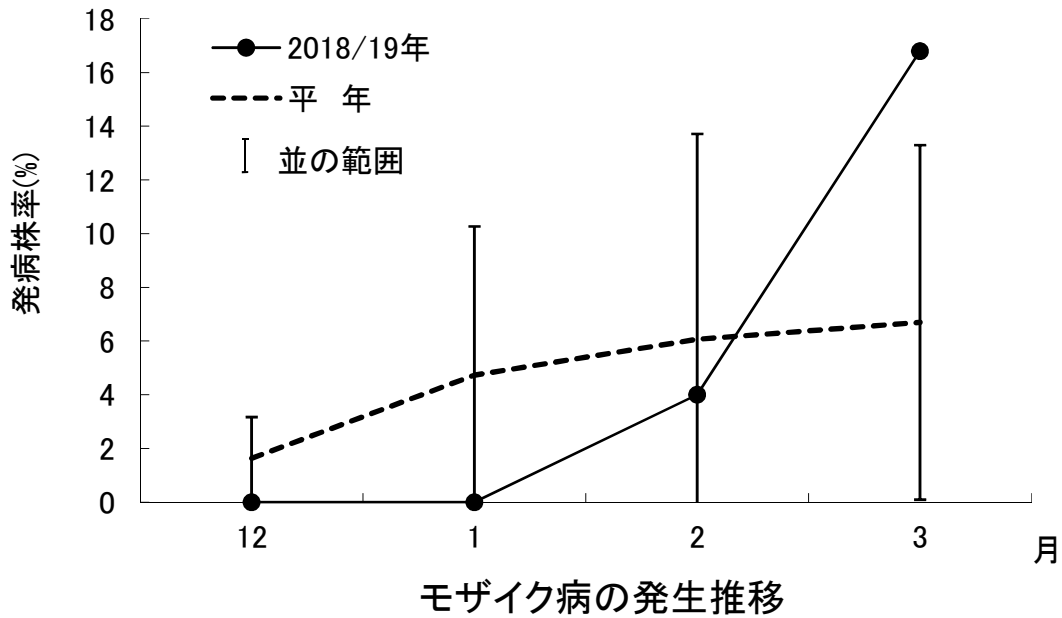
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状


作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

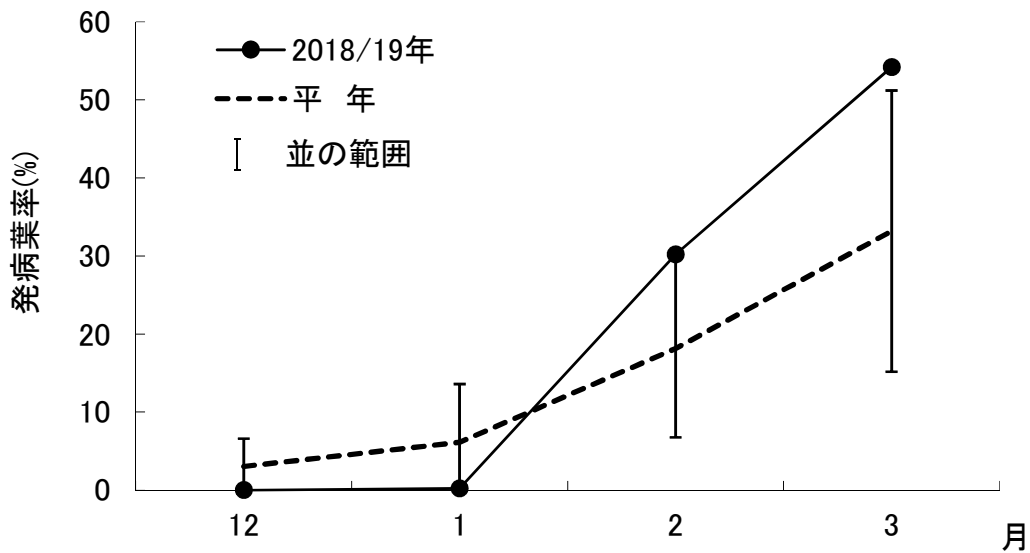


防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)




うどんこ病の発生推移

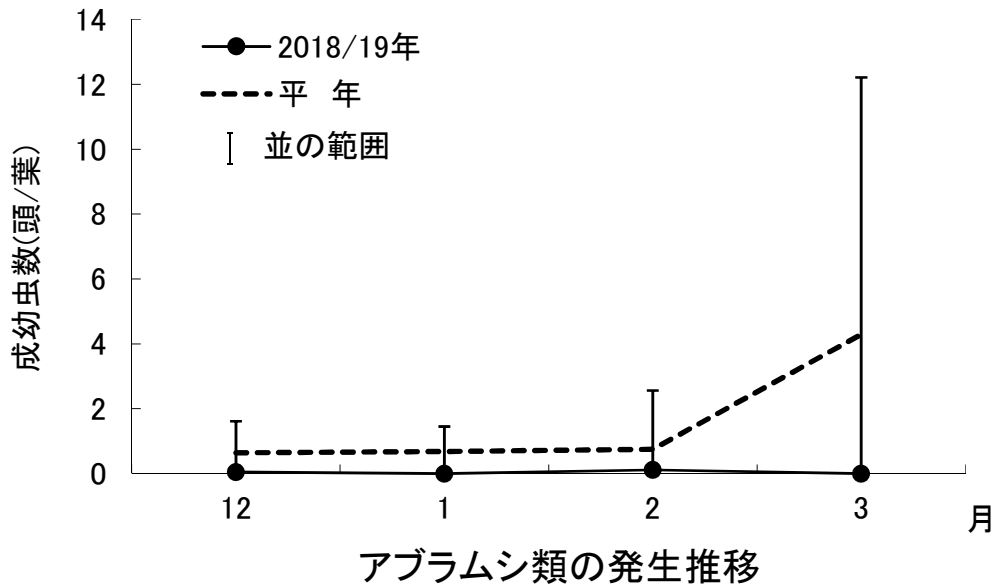
防除員の報告：中発生(本島北部)

防除のポイント

- ・ 発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 生育初期は徒長しないよう管理し、予防散布を行う。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の感染源になるため除去する。


作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

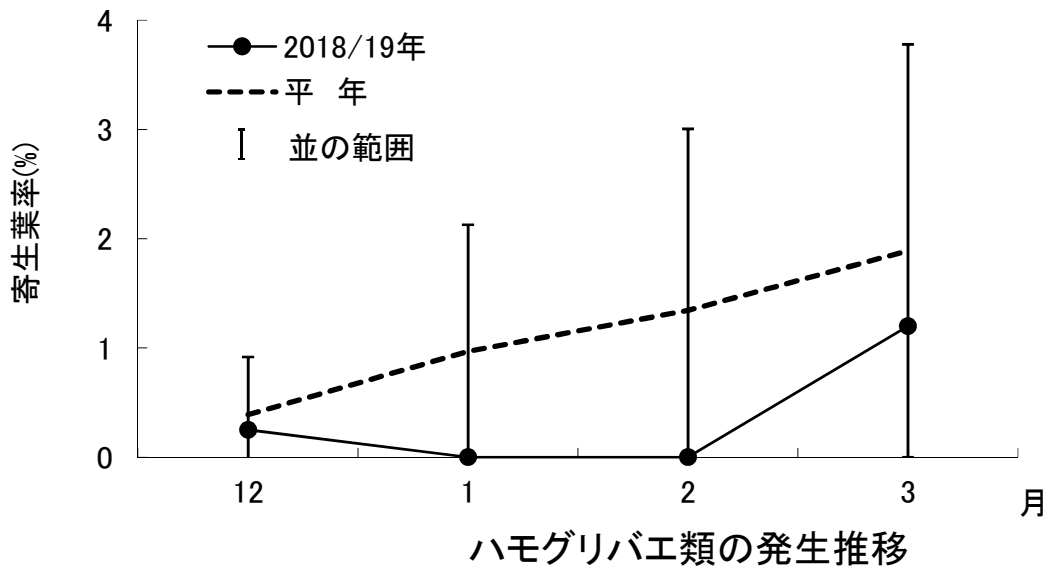


防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。


作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

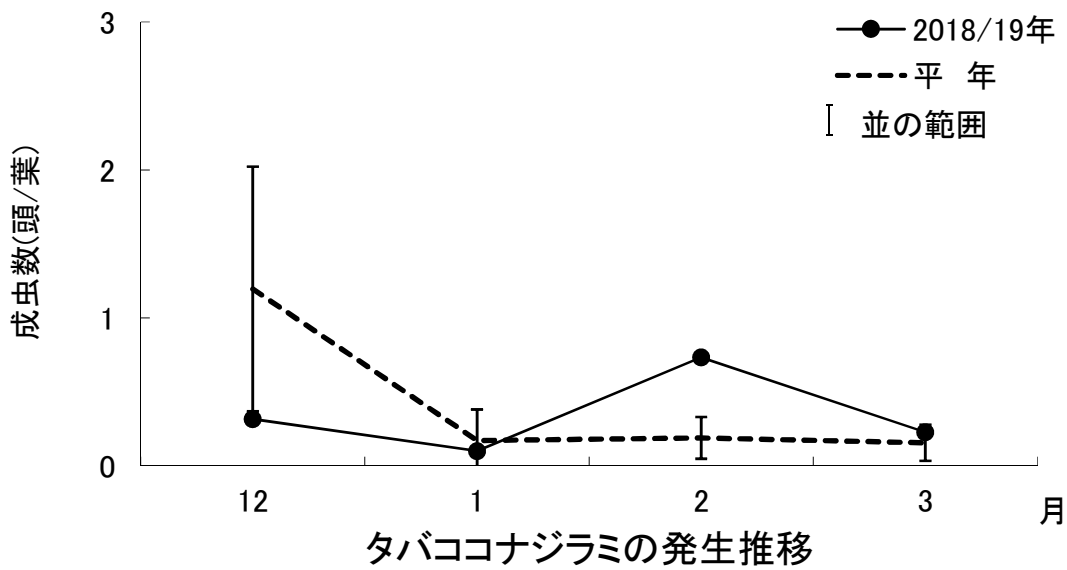


防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌病が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉面に産卵痕や食害痕がみえ始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)




幼虫



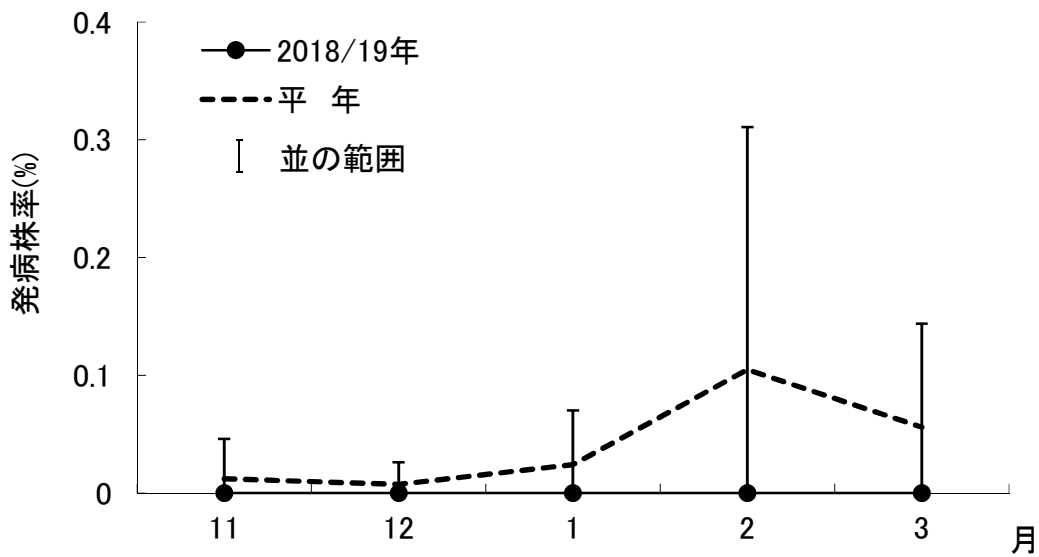
被害葉

防除のポイント

- ・多発すると白化症を引き起こし生育不良となる場合があることから、初期生育の防除を徹底する。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



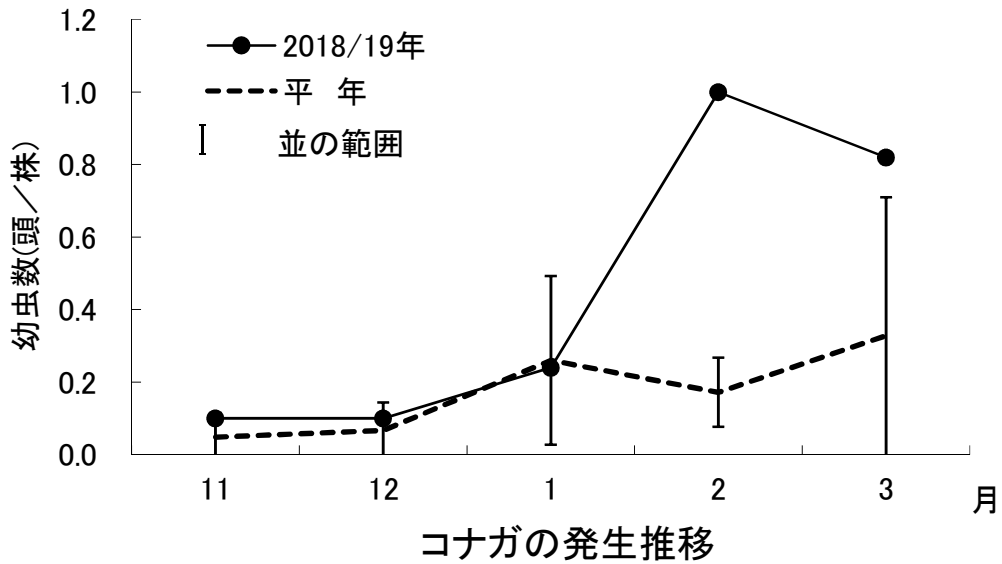
防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生した場合は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島																		
病害虫名	② 黒腐病																				
3月の発生量(現況)	(発生なし)並																				
4月の増減傾向	→																				
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。																				
発生量の根拠(調査結果)																					
<p>発生率の推移 (推定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2018/19年 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0.00</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>				月	2018/19年 (%)	平年 (%)	11	0.00	0.00	12	0.00	0.01	1	0.00	0.00	2	0.00	0.00	3	0.00	0.00
月	2018/19年 (%)	平年 (%)																			
11	0.00	0.00																			
12	0.00	0.01																			
1	0.00	0.00																			
2	0.00	0.00																			
3	0.00	0.00																			
<p>防除のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。 ・害虫の食害痕は病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も徹底する。 																					

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ コナガ		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



・一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。




若齢幼虫による被害



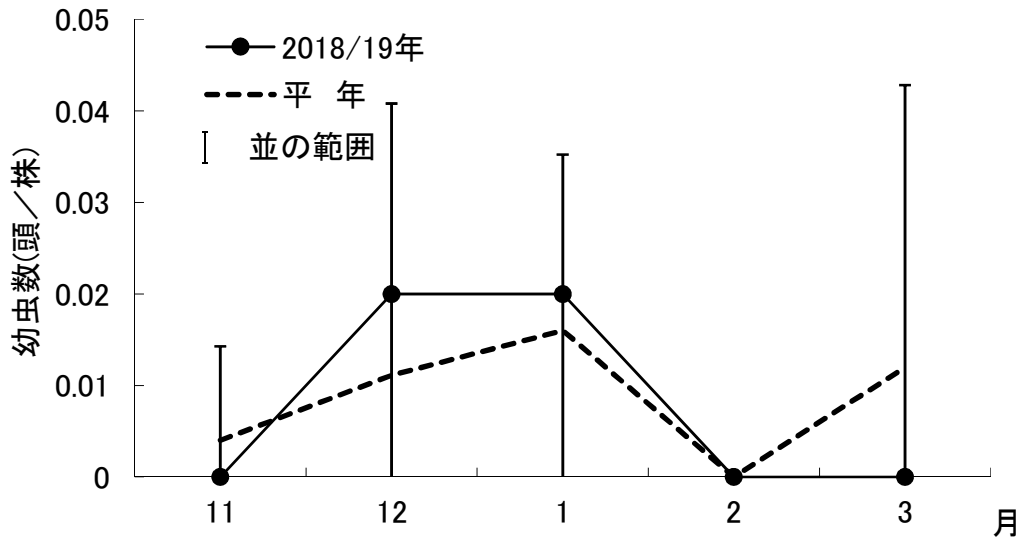
老齢幼虫による被害



蛹


作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ウワバ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

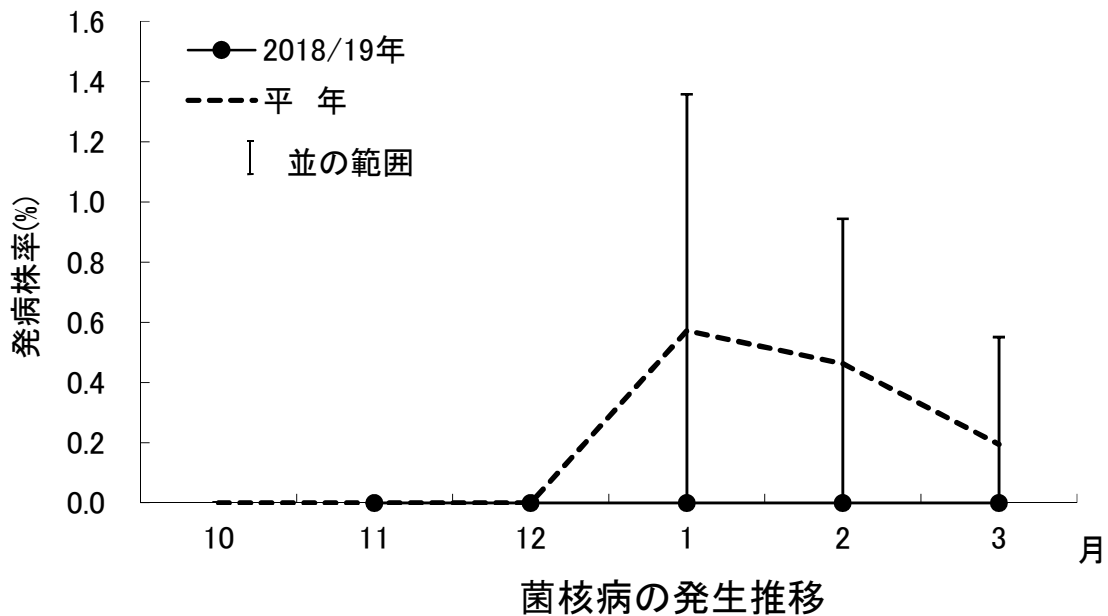


防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

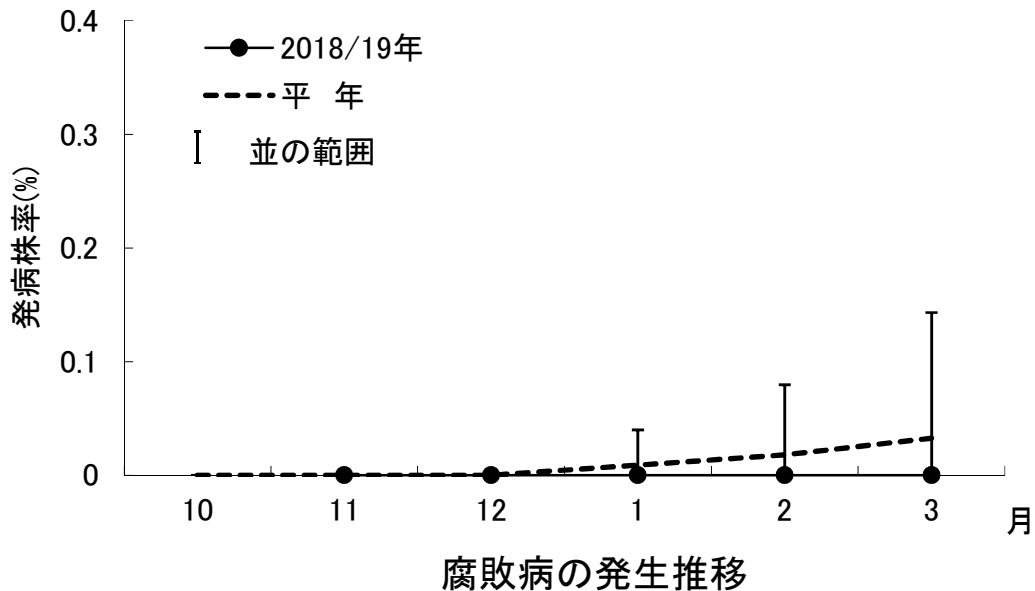


防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生した場合は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② 腐敗病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

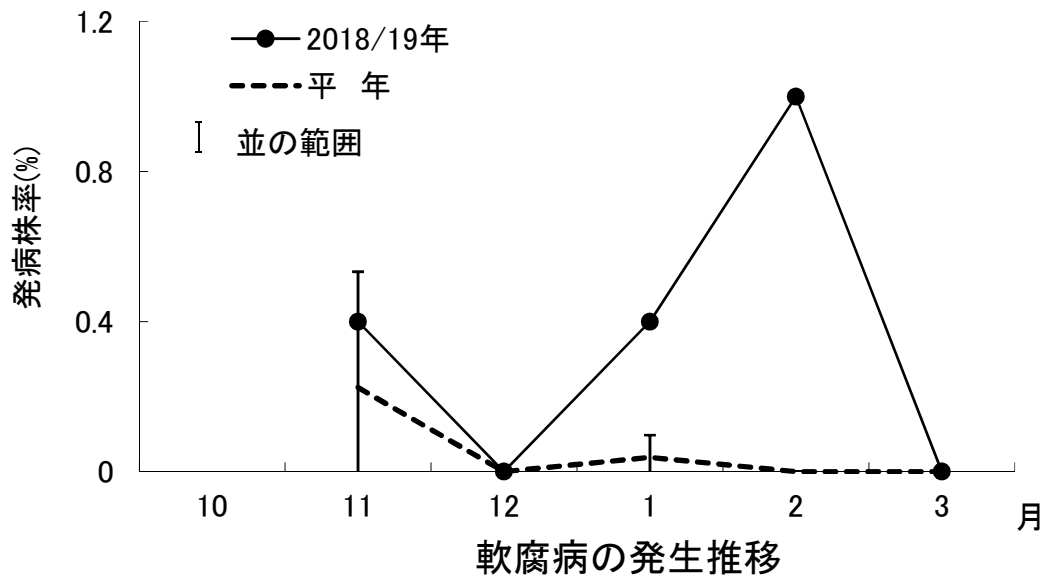


防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 軟腐病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

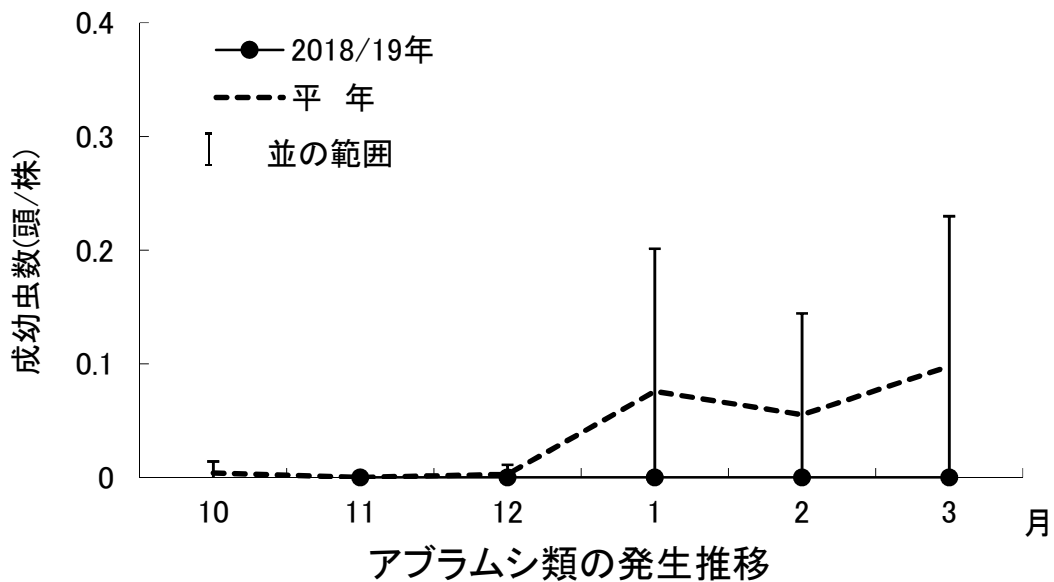


防除のポイント

- ・ ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・ 菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・ 薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・ 発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・ 多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。


作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

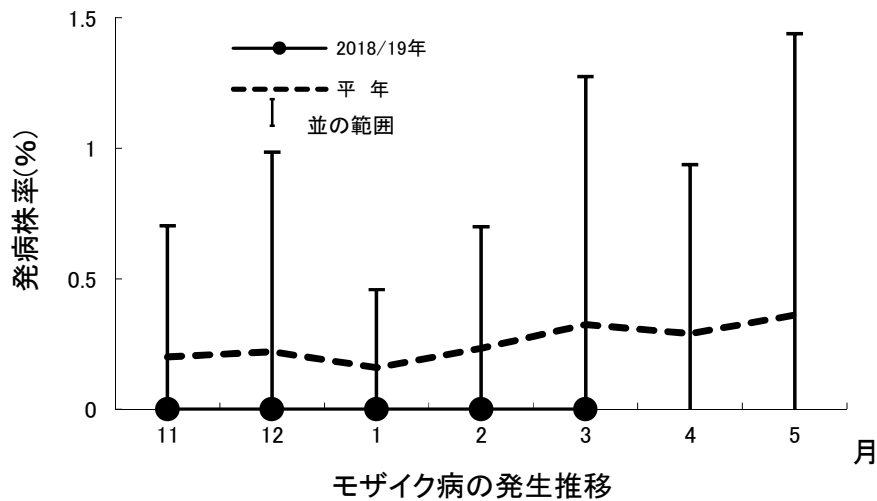


防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。
- ・天敵に影響の少ない、選択性殺虫剤を選定する。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

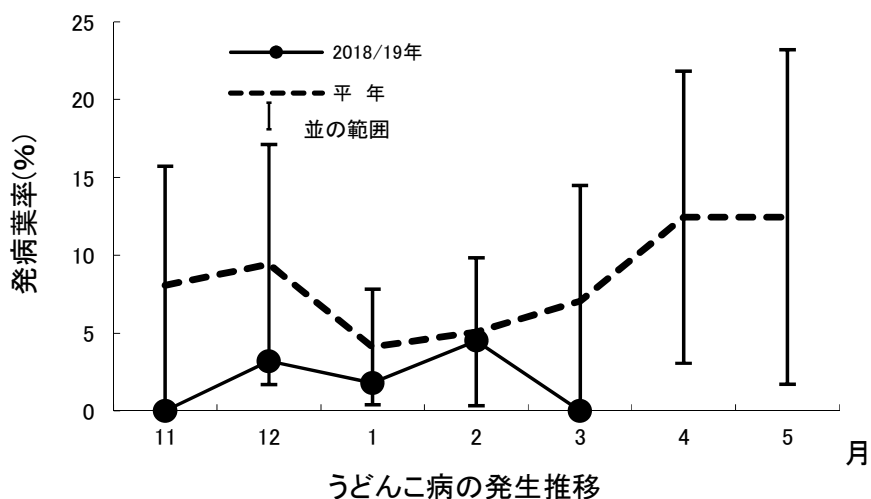


防除のポイント

- ・ 灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

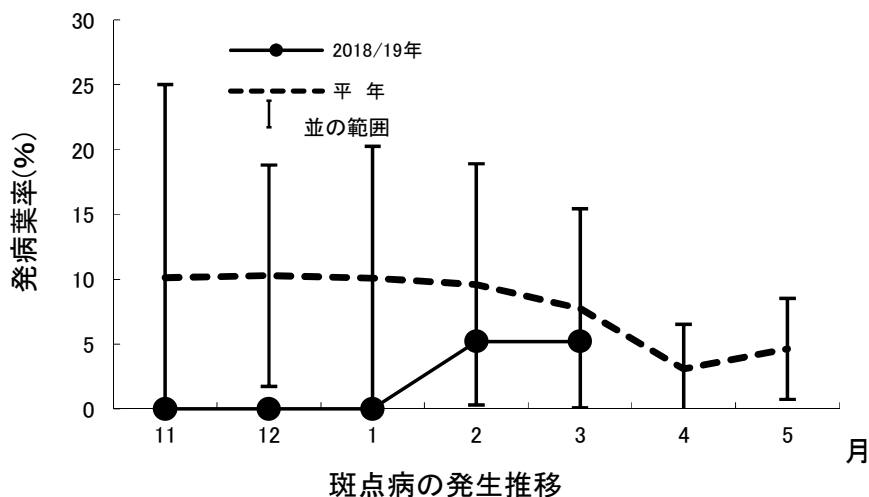


防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 斑点病		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

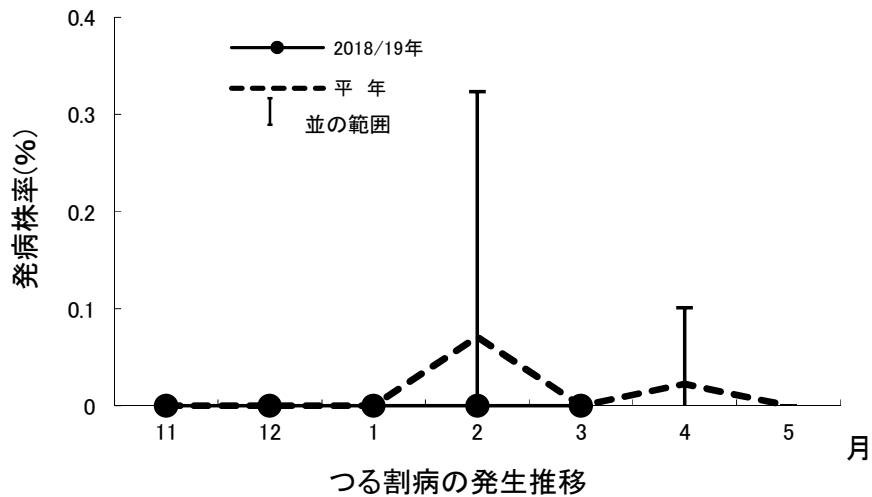


防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	つる割病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

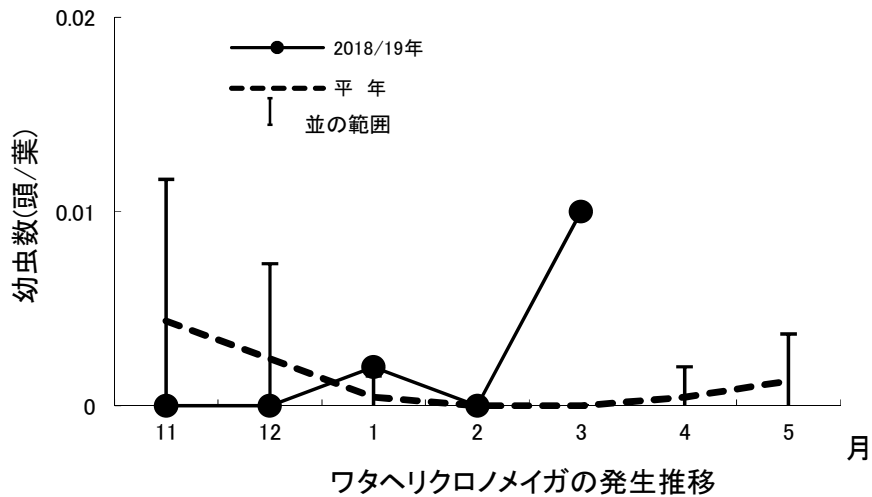


防除のポイント

- ・ 抵抗性接ぎ木苗を使用する。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生前の予防に重点を置く。
- ・ 発病した株は除去し、施設外に持ち出し処分する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ワタヘリクロノメイガ		 <p>若齢幼虫</p>
3月の発生量(現況)	多		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)





・一部ほ場で多発生した。

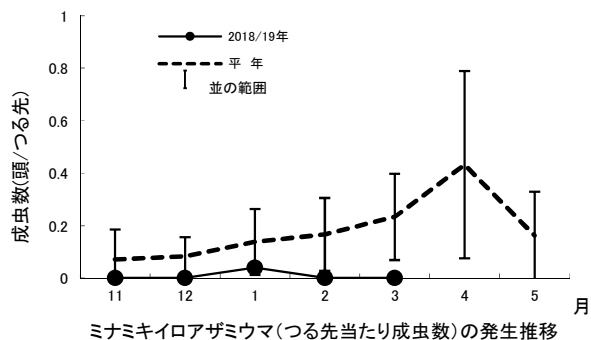
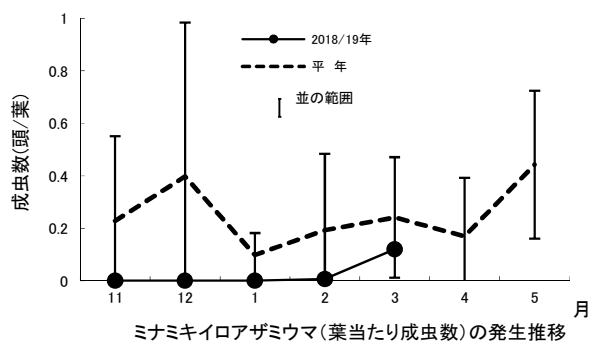
防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		 果実の被害
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	葉当たり成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



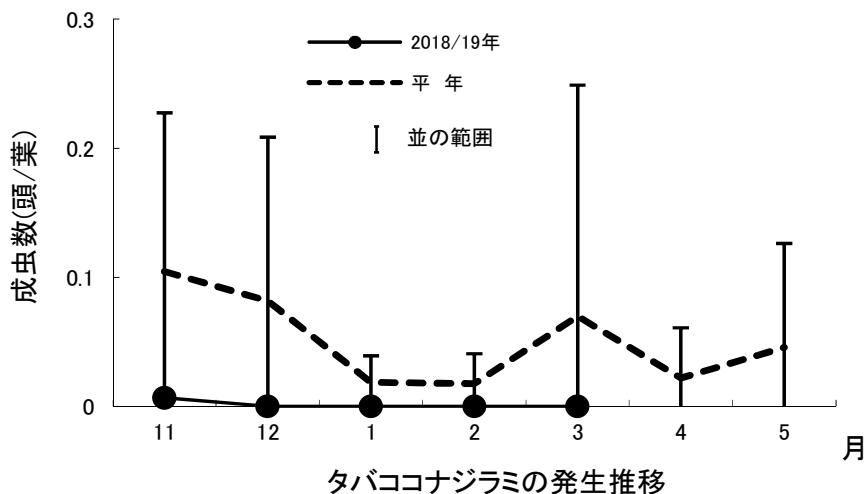
・一部ほ場で多発生した。

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

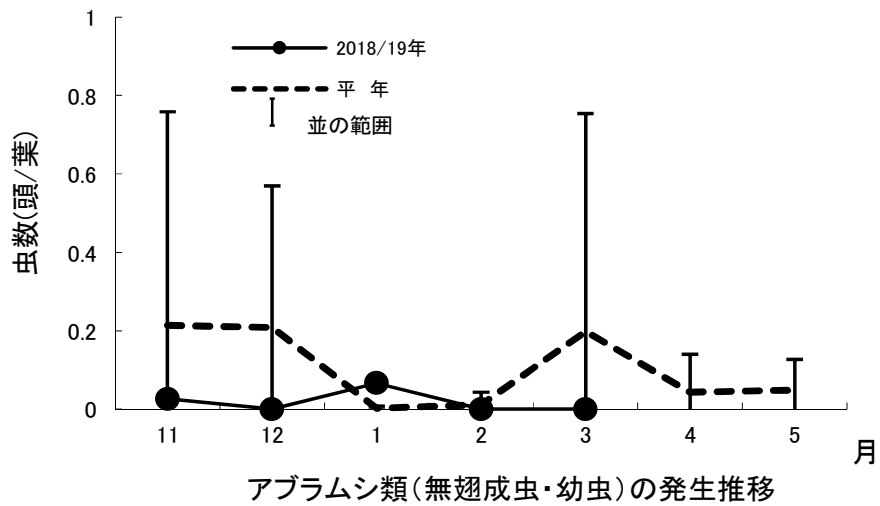


防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。


作物	ゴーヤー(施設)	
病害虫名	⑦ アブラムシ類	
3月の発生量(現況)	(発生なし)並	
4月の増減傾向	↘	
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。	

発生量の根拠(調査結果)

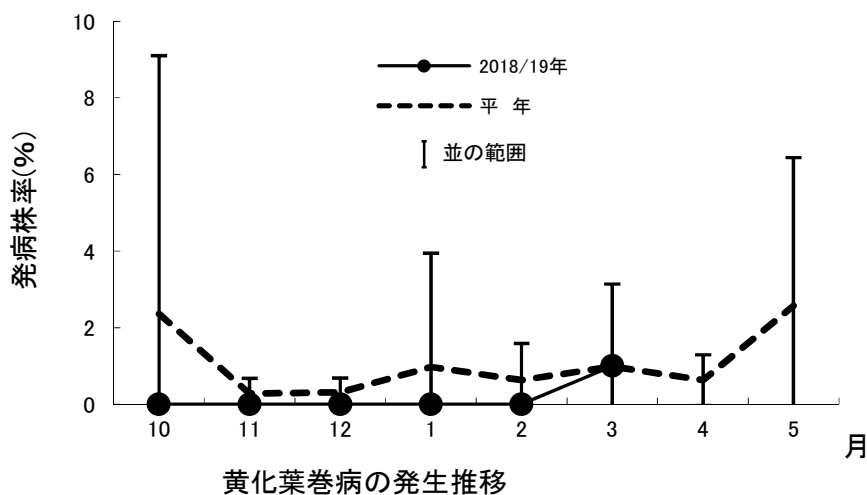


防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるタバココナジラミが増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）




防除のポイント

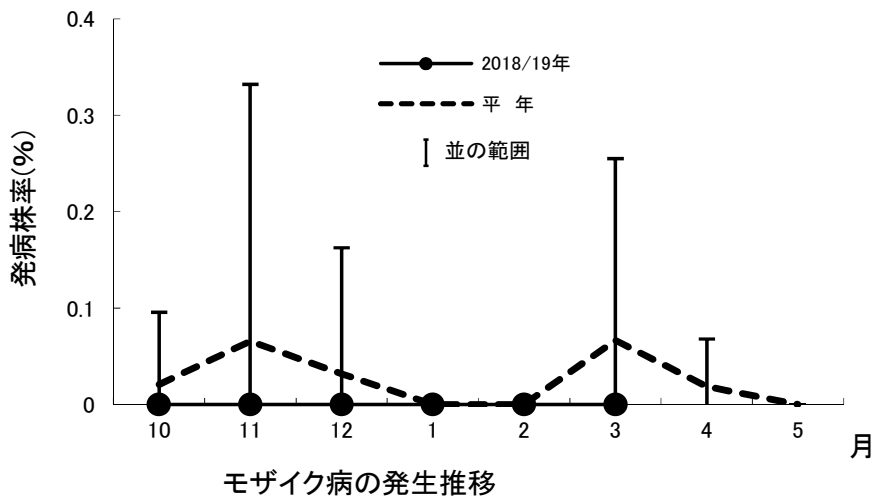
- ・媒介虫であるタバココナジラミの早期発見・防除に努め、伝染源となる感染株は抜き取る。
- ・雑草のムラサキカタバミは塊根に本病の病原ウイルスが感染し次期作の伝染源となるため、根から抜き取る。
- ・感染株及び摘葉残さ、ムラサキカタバミは、施設外に持ち出し必ずポリ袋に入れて密閉処分する。



伝染源となるムラサキカタバミ（ヤハタ） →

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

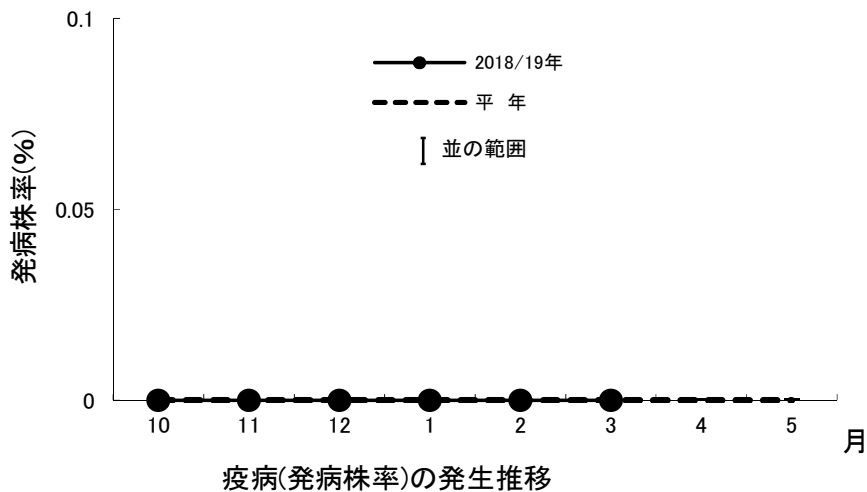


防除のポイント

- ・媒介虫であるアブラムシ類の侵入防止、早期発見・防除に努める。
- ・発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	疫病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	疫病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

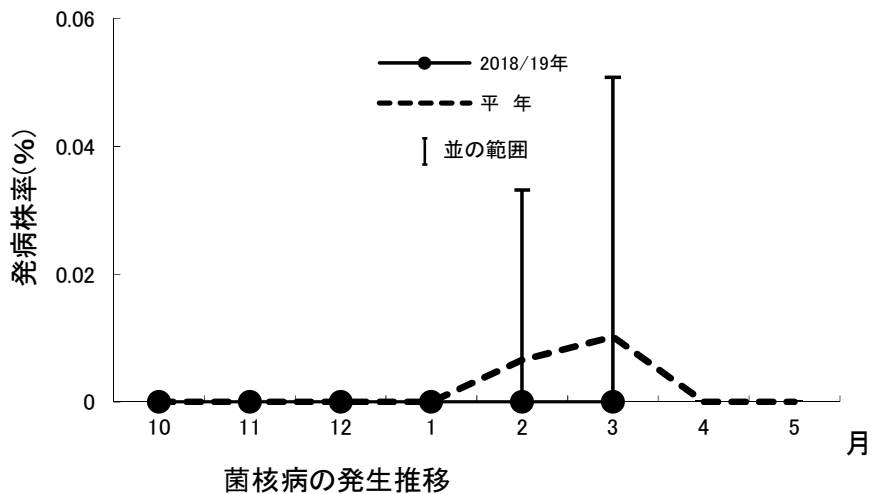


防除のポイント

- ・窒素質肥料の多施用を避ける。
- ・多湿条件や密植、過繁茂で発生しやすいため、排水や換気を良くする。
- ・発生源となる不要な老葉、下葉は除去し、透光通風をよくする。
- ・発病初期の病葉及び病果は見つけ次第、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤耐性を発達させる可能性があるため、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・病株を本ぼに持ち込まないように苗床の排水や喚起を良くする。
- ・敷草やマルチをして病原菌の土壌表面からの跳ね上がりを防ぐ。


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

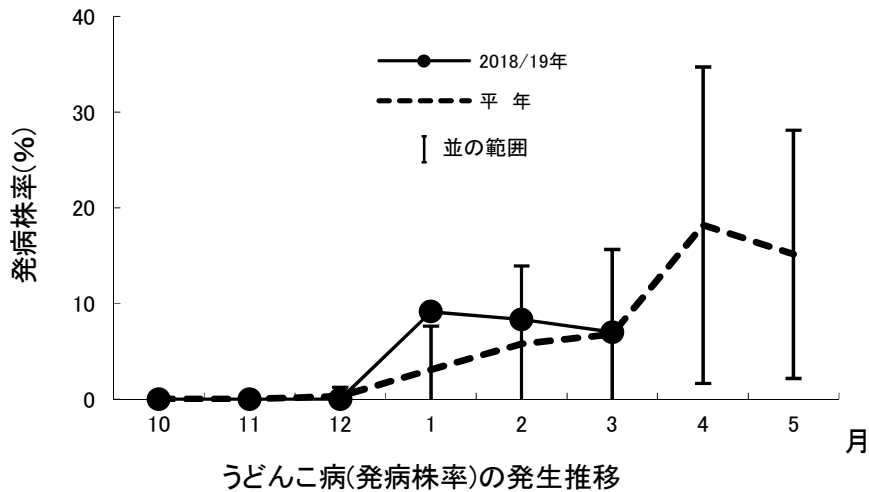


防除のポイント

- ・発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・発生しやすい時期なので、薬剤による防除に努める。


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

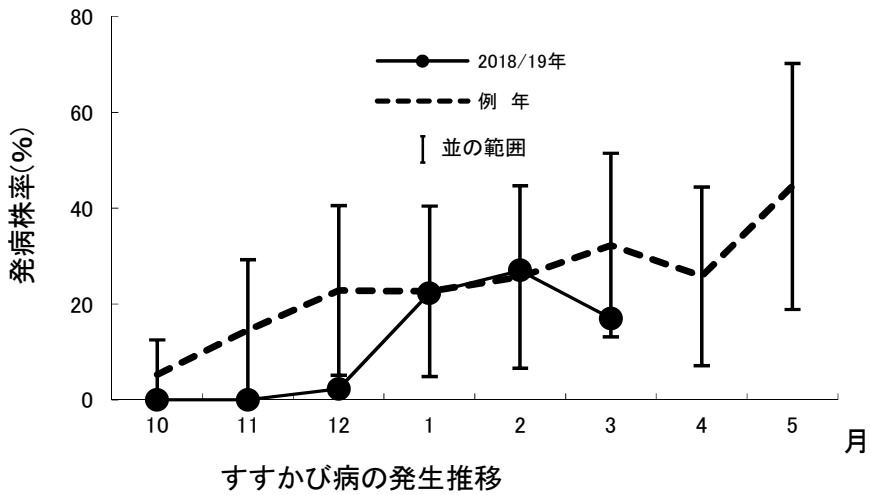


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	③ すすかび病		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の例年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

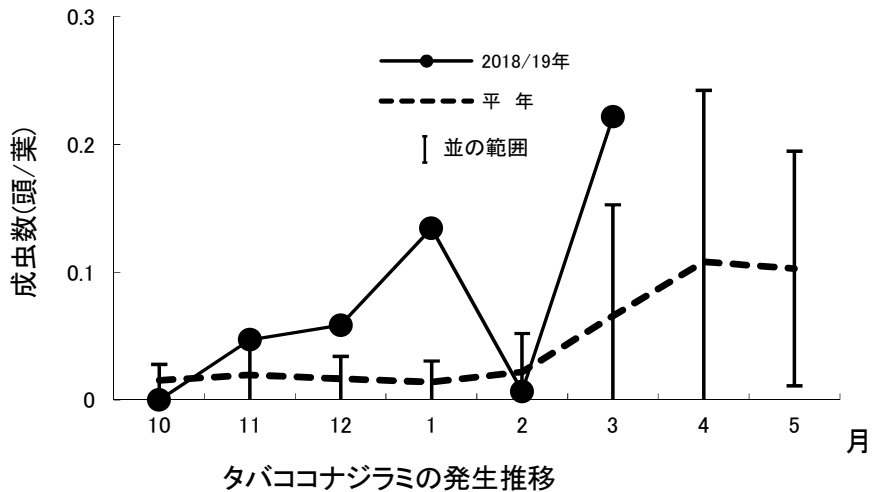


防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除を徹底し、感染の拡大を防ぐ。
- ・多湿条件や密植、過繁茂で発生しやすいため、排水や換気を良くする。
- ・発生源となる不要な老葉、下葉は除去し、透光通風をよくする。
- ・除去した葉は放置せず、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤耐性を発達させる可能性があるため、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

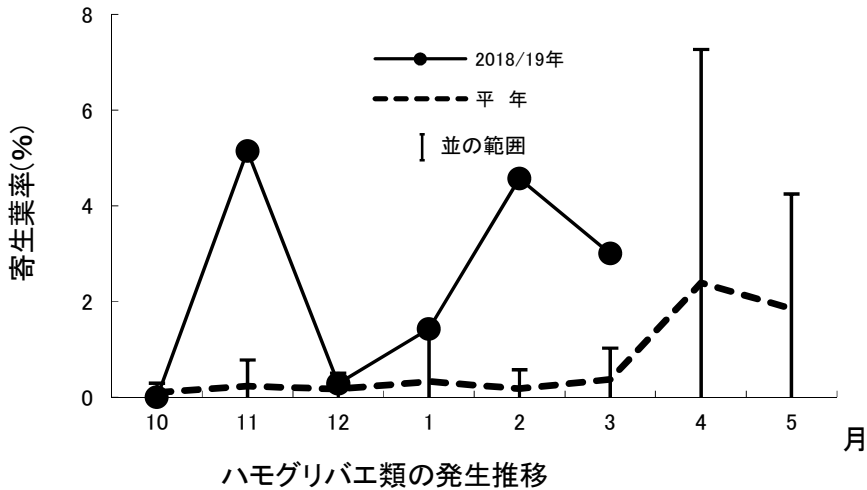


防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハモグリバエ類		
3月の発生量（現況）	多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

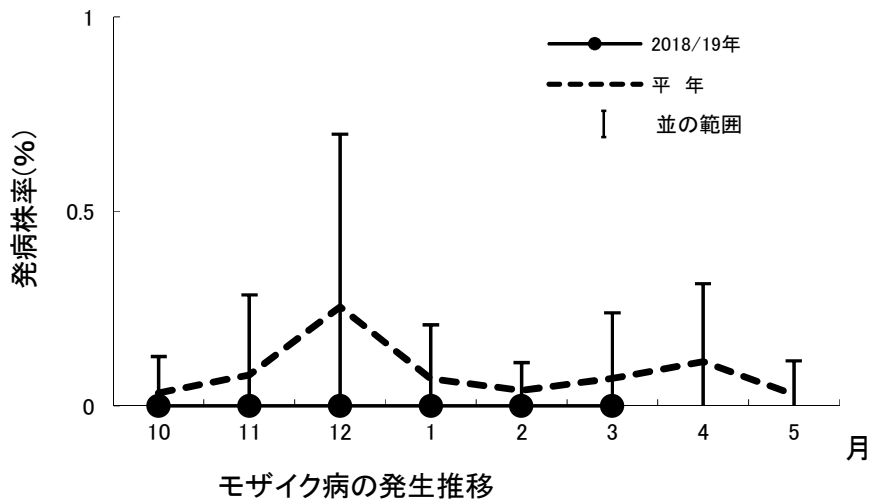


防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・本種は多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が比較短的いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒色に変化する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

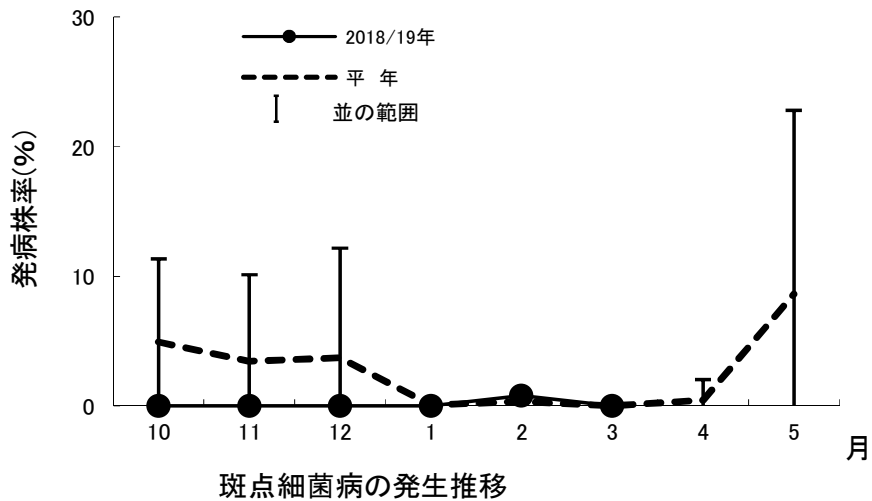


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

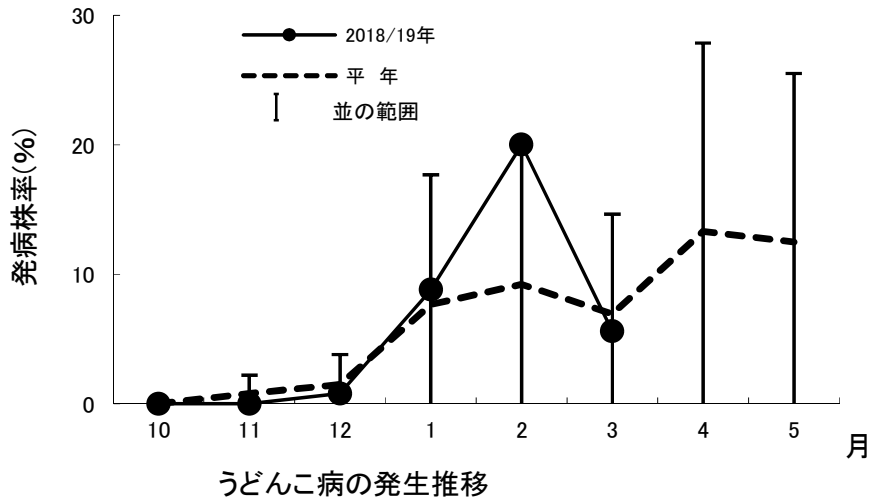


防除のポイント

- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

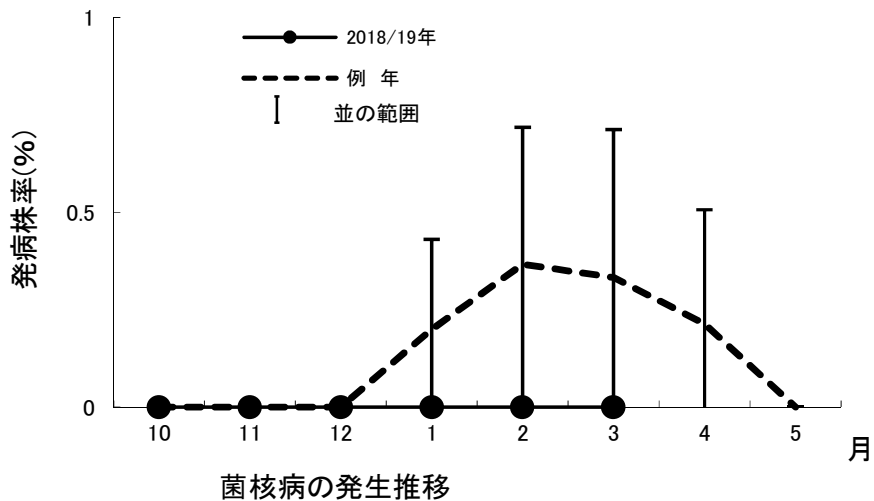


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病株率の例年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

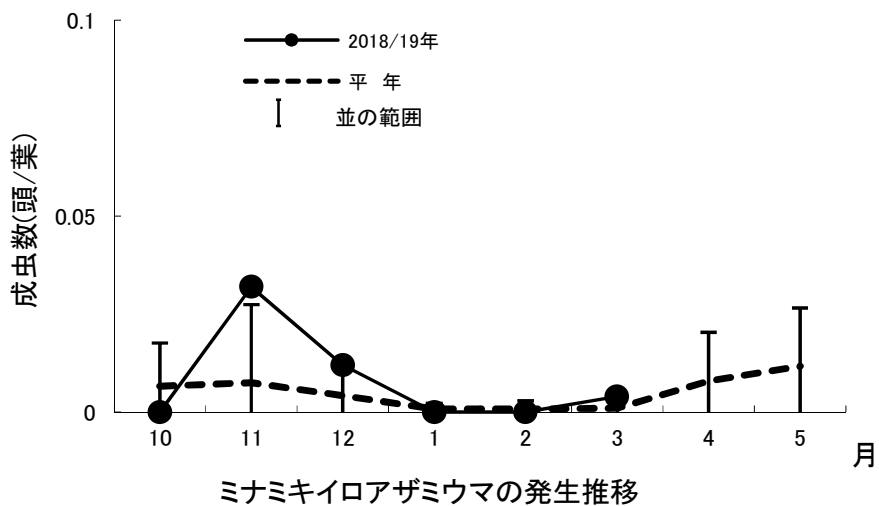


防除のポイント

- ・発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・発生しやすい時期なので、薬剤による防除に努める。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

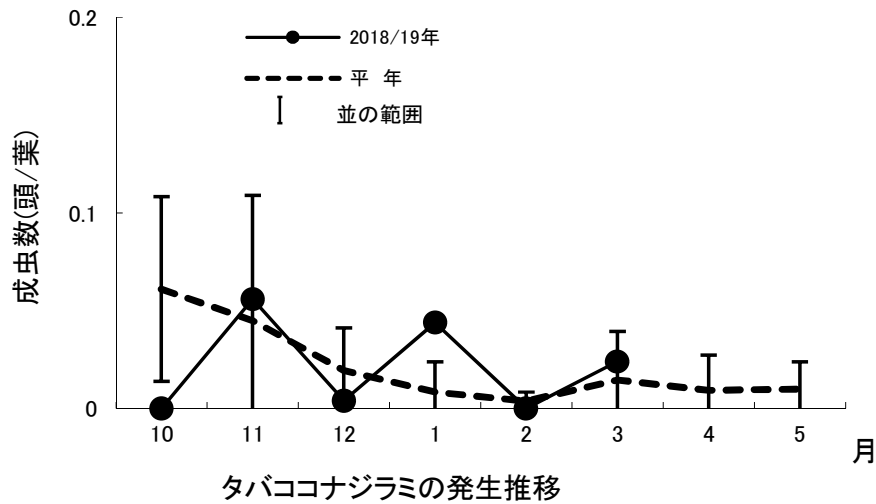


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

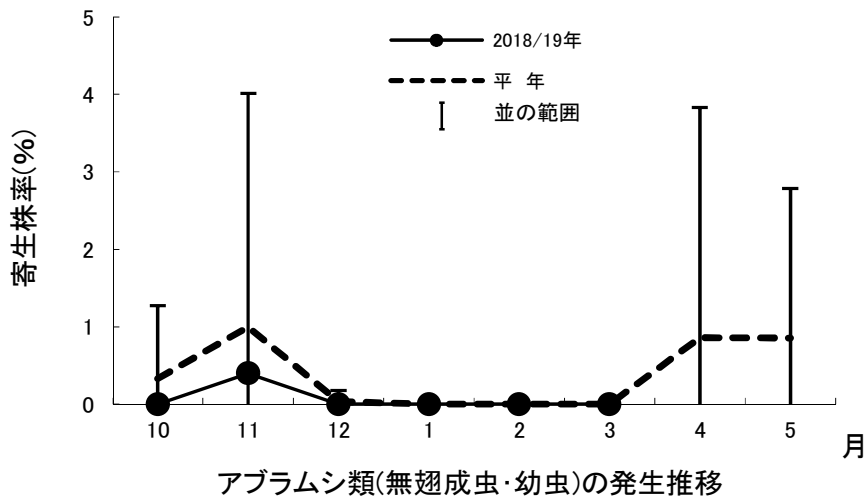


防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

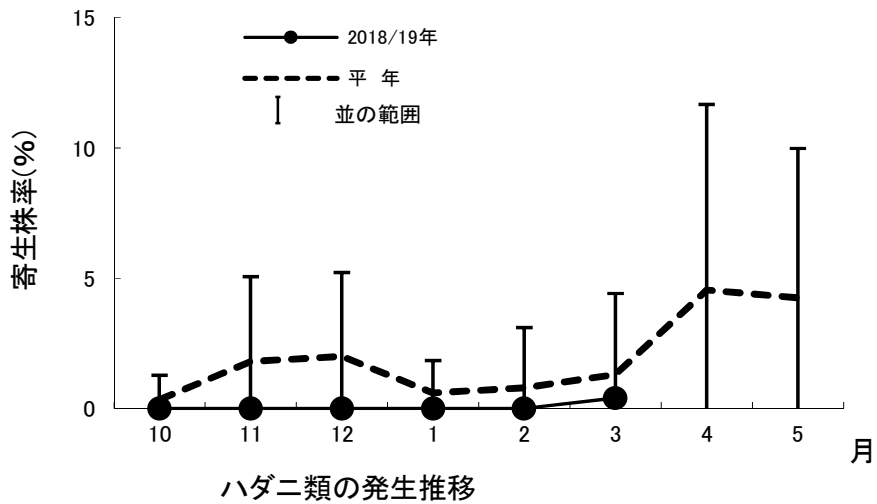


防除のポイント

- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



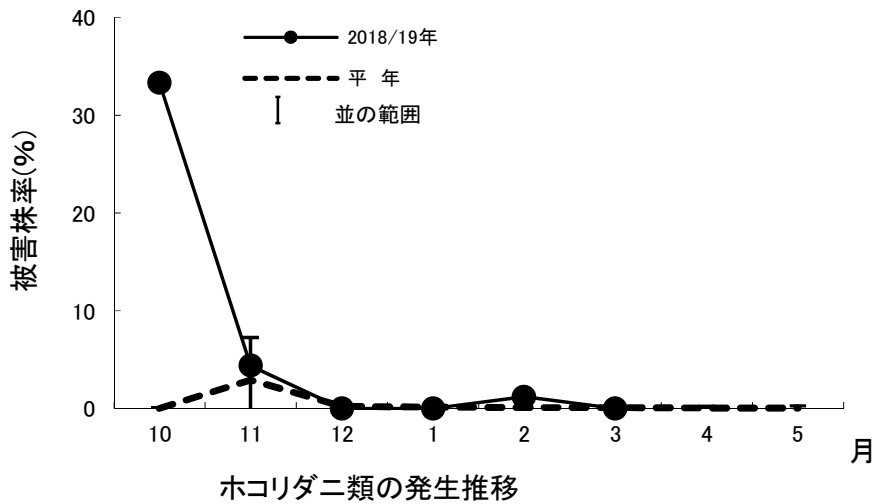
・発生種：ナンゴクナミハダニ

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

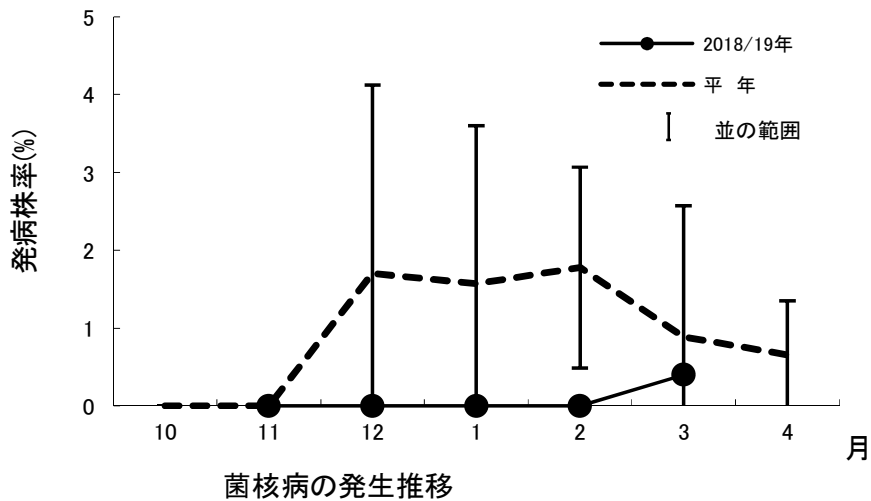


防除のポイント

- ・ 短期間で高密度になりやすいになるため、早期発見・防除に努める。
- ・ 施設内のナス科雑草は発生源となるので除去する。
- ・ 薬散は葉裏へ丁寧にいき、生長点付近や未展開葉に潜っている個体へ薬剤がかかるようにする。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

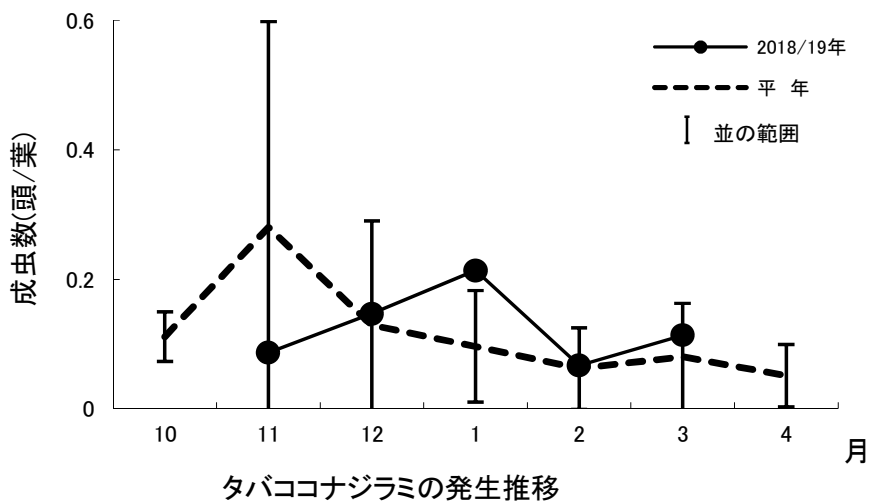


防除のポイント

- ・発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ポリ袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

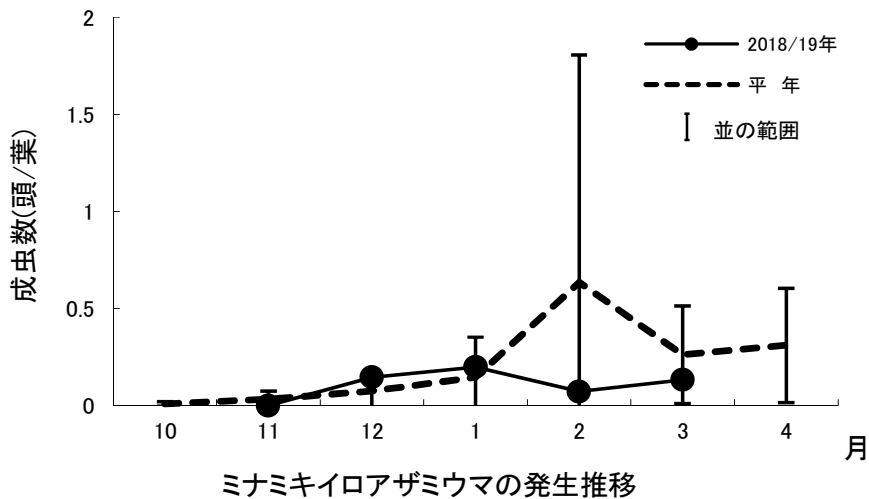


防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、ほ場内への侵入を防止する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

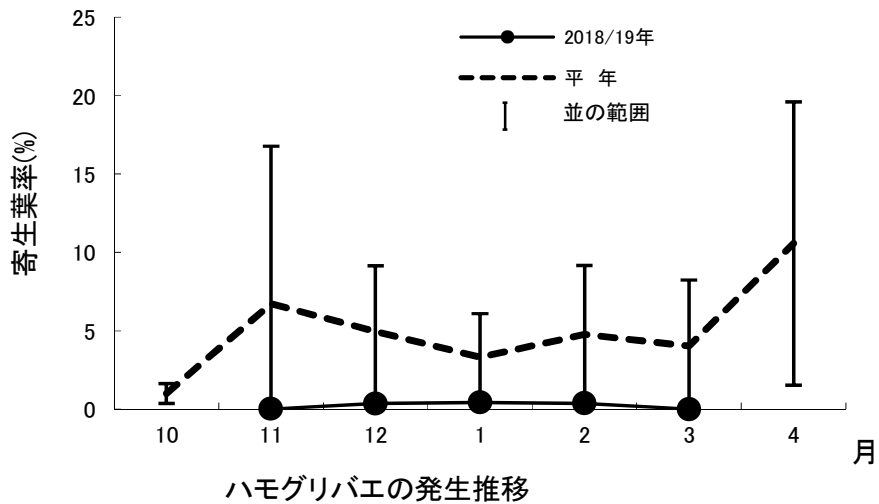


防除のポイント

- ・ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

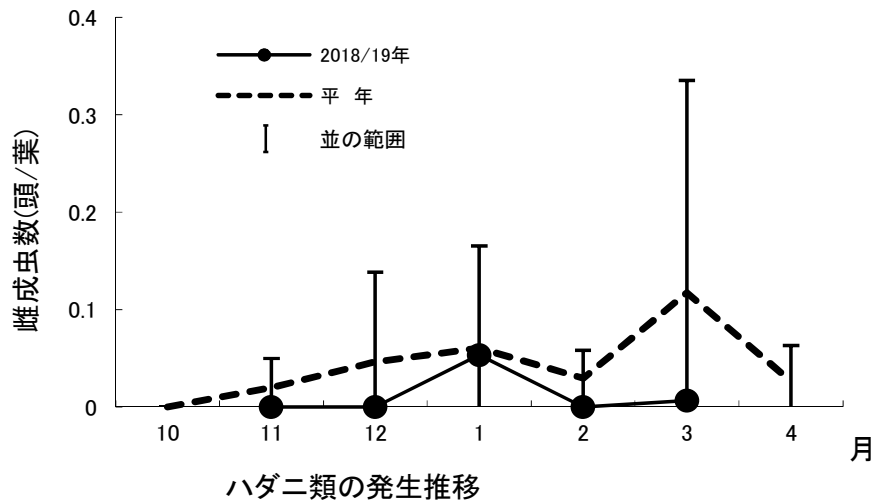


防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。